（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2271100832		
法人名	特定非営利活動法人　友愛ホーム		
事業所名	グループホーム手鞠		
所在地	静岡県沼津市西島町８－２５		
自己評価作成日	平成23年3月9日	評価結果市町村受理日	平成２３年３月３０日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22711

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵２－１４－３６－４０２
訪問調査日	平成23年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

去年の10月よりセンター方式を積極的に取り入れている。スタッフが様々な視点でシートを記入することにより、入居者様はもとよりご家族やスタッフ間の距離が近くなっている。
ディサービスとの合同音楽会を週2回開き、ディのご利用者と交流をしている。
毎週日曜日には入居者が順番でスタッフと買い物に行き、自分の希望献立を他入居者やスタッフと作り食事を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

大型ショッピングセンターが近くにある住宅街に立地し、事業所の付近は人通りも多い。自治会や近所とは普段から親密に交流があり、「お宮でお汁粉の振る舞いがあるよ」「地域清掃にもっと参加してください」などの声掛けがあるとのことで、ごく普通の近所付き合いの関係が覗える。また、利用者の地域イベントへの参加や、近隣への外出も随時おこなわれ、外に向けた活動も充実している。
事業所では職員全体でセンター方式を活用した寄り添うケアに力を入れている。全ての職員が各々書き込んでいくことで、観察力が高まるという効果がみられている。利用者像の欄は細い描写で書面いっぱいに描かれ、また職員が参照したり追記した跡からがみられ、シートの活用が十二分におこなわれていることが視認できるとともに職員の熱意が伝わってくるものであった。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認め合い、支え合い、感謝と笑顔」を理念とし実践に取り組んでいる。	「今月の目標」を立て職員意識を高め、理念の実践に反映させている。チームワークや入居者の気持ちを大切にすることを示し、職員一人ひとりの意識に浸透させている。職員間でも、気遣いを表し「ありがとう」と感謝しあうやりとりが見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度の運営推進会議を開くことにより、地域の方々と交流している。地域の行事に参加したり、ホームで認知症サポート養成講座の開催をし、理解を深めている。	神社の清掃や地域の防災訓練に職員が参加している。また、そうめん流しや餅つきなど事業所のイベントに地域の人を招くことは開設以来8年継続している。ボランティアの協力もあり、一人芝居の膝踊りが滑稽で参加の皆さんに好評だった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動として、認知症サポート養成講座を開き、地域の人々に理解を支援を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での色々な意見を真摯に受け止めて改善に向けている。また、玄関に意見箱を設置し、幅広く意見をいただくようにしている。	年6回の開催には、地域からの参加も多い。地域の参加者からは「地域清掃に出てください」「よその人がゴミを捨てているよ」など地域に密着した話題があがっている。	開催日程を一辺倒にするのではなく、参加してもらいたい人の参加しやすい日程で何パターンか組み、参加者が増えることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ｾﾝﾀｰ方式の報告会や認知症サポート要請講座の開催など、市や地域包括支援センターとの連携を密に取っている。	市には案内をおこなっており、それに応えて年間何回かは参加してくれる。市が開催の報告会に参加したり認知症サポーター養成講座を開催するなどの協力している。介護相談員の訪問もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	友愛マニュアルにて、スタッフミーティング時、その都度、対応を確認し学んでいる。「身体拘束0宣言」をしている	マニュアルや同意書が整備されているが、マニュアルだけに頼らず、介助動作の細かいところにも潜在的な拘束があり、それらに配慮することを心掛けている。不穏の多い利用者には、対応するスタッフや場所を変えるなどの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	友愛マニュアルにて、スタッフミーティング時、虐待防止について学び、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沼津市で開催している、沼津市ケアプラン指導研修事業　権利擁護研修会に出席し権利擁護について学び、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書にもとずき、重要事項を確認しながら十分な説明を行い理解し契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議の際、意見を伺っている。スタッフ会議・ホーム会議で内容を検討し、運営に反映している。	休日は家族の訪問が重なるため、管理者はできるだけ居るようにしている。このような取り組みや、24時間連絡体制を整えることにより、家族からの連絡も増え、信頼が作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・ホーム会議において、スタッフの意見を聞くとともに、個別に意見を聞く姿勢をとっている。	業務管理日誌に「今月の目標」「今週の目標」を毎日記入することにより、共通の認識を高めている。管理者は職員の相談にいつでも応じる体制を整えるよう努めている。個人面談は雇用契約更新にあわせて毎年おこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように、ボーナス等に反映させるよう、整備に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、ｾﾝﾀｰ方式への取り組みを行っているが、外部への研修は勤務体制の都合もあり、自己研鑽とし、研修の情報提供をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生受け入れを積極的に行い、同業者交流やサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の話を聞き、ご家族にはセンター方式のAシートを渡し、本人の困っている事、不安等さまざまな情報収集をしケアプランに生かし安心していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族と面会し、ざっくばらんにご家族に話しをしていただき、情報収集し関係作りをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医の意見書や前に使っていたサービス事業所との連携等、あらゆる情報を収集し計画作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意な事を教えていただき（漬物作りなど）人生の先輩をしての経験を話していただき、人生の糧としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化やご本人の要望時にはすぐご家族に連絡し、連携している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所などのご本人の話を記録し、全スタッフと共有し話題にする。時には車で園場所へ行き、新しい思い出作りをする支援を行っている。	日常の会話を記録し、本人の思いや意欲を大切にしている。特に発した一言の意味について考えたり、感じたりすることに努めている。また何気ない会話のなかららも実際に発言している事実を重んじている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定の入居者に偏ることのないように全員を把握しながら、入居者同士が仲良く暮らせるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム内でのイベントの案内を送って、来ていただいている。12/12の認知症サポート要請講座の参加者に死亡退去されたご家族がおられた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のマネジメントを使用し、色々な視点、角度からの希望、意向の把握をしている。	例えば利用者が日中横になっていることについて、眠いのか、やることがみつからずにいるのか、違いを明確にして対応し、状況や個別性に添ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のAシートやB－3暮らしの情報シートの記入によって、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式D－1，D－2シートを利用し、色々な現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティング内においてモニタリングをし、センター方式によって収集した情報等を共有し、介護計画を作成している。	ミーティングの際には職員全員が意見を出すモニタリングから始めている。日々の記録については、事実に基づいた正確な記録の向上を目指している。結果は全員で回覧していることが確認できた。	,
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記録をし、特記事項は右端に「評価・考察」とし青ペンで記入しスタッフ間の情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の個別性を大切にしている。通院時の付添い、夜間不眠時の対応など固定化しない対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ地域資源の把握はできていない。地区の祭りの参加や近所の方の訪問など少しずつではあるが、地域資源との協働ができつつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	透析治療の特別な事情がある方を除き、9名中8名が提携医を主治医としている。	かかりつけ医継続する利用者もいる。受診の支援は職員全員で分担している。受診の際、状態に変化があれば家族に伝えている。「通院及び往診日報」の記録により、受診結果や注意事項がまとめられていることが確認できた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職との協働は行っていないが、毎週の往診時主治医と同行の担当看護職とは、日々、相談等連絡を取り合い適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	透析の方の医療機関と連絡帳を通じ密に連絡を取り合い、担当看護職より通院時、電話等で、指示・報告等を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	センター方式でご本人のターミナルの意向を伺ったり、ご家族の意向を伺っている。常にご家族とは方向性を確認し合いながら支援に取り組んでいくよに支援している。	昨年2人の看取り実績がある。終末期に際して、状態や連絡の記録を残している。家族からの要望や意向が文書で確認できた。看取りに立ち会った若い職員が負担にならないように不安がないか聞くなどの配慮をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前ホームで救急救命の講習を受けたが、実際の際は不安である。急変時の対応についてマニュアルで勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の消防署による訓練は定期的に行っているが、地震、災害時については不安がある。地域防災との協力体制の確立が急務である。	地域の防災訓練に職員が参加しているが、事業所の開催に地域の参加はない。避難所として登録しており、訓練開催を回覧板で回したが、集まらなかった。連絡網、役割分担、防災マニュアルも整備されている。	通常の職員配置では夜間における避難が困難になることも考えられるため、夜間を想定した訓練に繰り返し取り組むことや地域住民の協力を得ていくことが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	友愛マニュアルに、利用者のプライバシーについて提示し、スタッフミーティング時に勉強している。言葉かけや対応は勉強会で学ぶと共に、日々の業務でスタッフ間で注意し合う体制をとっている。	利用者を尊重し、命令口調にならないように注意しあっている。自覚をもち、相手を尊重する気持ちが感じられる。介護記録の中にも、他利用者は仮名にするなどプライバシーに配慮されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日曜日は入居者が順番で、自分の好きな献立で食事をするようにしている。買い物に一緒に行き、食材を選ぶよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や就寝時間等、入居者の希望に沿った暮らしをしていただくよう働きかけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、毎日の髭剃りへの声掛けなど、清潔の保持と共に身だしなみへの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	男性入居者にも、食器拭き・配膳をしていただくなど、皆で食事の準備、片付けを行っている。	高齢者にとっては、米の良し悪しが大切であると認識し、良質なお米を提供している。利用者にも機能訓練ということを理解してもらって食器拭きなどできるように支援している。片づけについては一人ずつ記録に残していることから確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取鵜量等、チェック表に記録している。栄養管理は栄養士が行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、声掛けし3食共行っている。ご本人の意思で寝る前のみ、義歯洗浄という入居者もおられる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェク表や申し送りで、入居者の排泄パターンを把握し、適時トイレ誘導をし自立への支援を行っている。	排泄前後の着衣の様子も確認している。排泄チェック表には利用者ごとの時間と尿量が細かく記録されていた。下剤の服薬については医師と連携して取り組んでいる。	誘導したのか、尿意便意によるものかの記録の明確化が期待される。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品を積極的に摂り、主治医の指示のもと便秘薬の服用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば午前、午後、夜と決めず入浴していただいている。	以前は曜日ごと対象が決まっていたが、現在は自由に入浴できるようになっている。嫌がる人には対応の上手な職員を参考にしたり、アプローチの方法を変えるなど工夫している。あらかじめ声掛けしてしておき、動機づけもおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので好きな時に休息している。居室などで閉じこもりにならないようフロアーでの生活の楽しみを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々のファイルに処方箋をとじ込み、スタッフが薬について調べやすくしている。新しく処方された時は処方箋をコピーして、管理日誌に添付し全スタッフが閲覧するよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のシート利用により、一人一人の支援について情報収集し、スタッフが共有し喜びや楽しみにむけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、買い物などの支援を行っている。外食などご家族と嬉しそうに外出することも多い	外出の時間的ゆとりを作ることに努め、沼津港など近場を探訪したり、かぬき山へのドライブなどにも取り組んでいる。事業所の前のショッピングセンターへたい焼きを買いにでるなどこまめに外出を繰り返し、できるだけ外の空気を吸うことができるようにという思いがある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを金庫に預かり、希望により向かいのマックスバリューにスタッフと行き好きな物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があり、通常の常識の範囲の時間であれば、スタッフが電話をしご本人に代わって話していただいている。手紙も要望があればお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は共同生活にふさわしいように整え、障害になる物は置かない。花が極力絶やさないようにしている。	絵や切手が飾られ、テーブルには季節の花が咲いている。殆どの利用者が部屋に閉じこもらず、共用空間にそれぞれの居場所を見出し上手に活用できている。送風の冷房が直接当たらないようにすだれを付け、温湿度の管理にも心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごしていただけるよう、入居者の席の配置には配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は入居前に使用していた馴染みの物を持ち込んでいただいている。	時計やタンスのほか、ベッドも持ち込み、それぞれの好みで配置されている。また、カレンダーや写真なども飾られ、生活を楽しんでいることも覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーであり、共同空間、居室はわかりやすい配置にある。		